

図書館に勤めた文学者人名録（追補）

東京大学工学部機械系図書室 滝沢 正順

117号の「図書館に勤めた文学者人名録」をご覧になった飯澤文夫氏(明治大学図書館)から多くのご教示をいただきました。この場を借りてお礼を述べるとともに、紹介させていただきたいと思ひます。(形式は117号のときになります)。

1. 追加等

1. 渋川 驍 (小説家、117号の11-15を参照ください)
武蔵大学図書館就任年 1963年
東海大学教授(図書館学) 1974~1983
2. 坂本四方太 1873~1917 俳人・小説家
鳥取県生まれ 東大国文科卒
東京大学附属図書館 1908~1915
(司書官兼文科大学助教授)
3. 杉森久英 1912~ 小説家 石川県七尾市生まれ 東大国文科卒
日本図書館協会
4. 吉行淳之介 1924~ 小説家 東京生まれ 東大英文科中退
東京大学図書館洋書目録掛 1945 (勤労動員)
5. 山田かん 1930~ 詩人 長崎市生まれ 長崎県立図書館
6. 中村昌義 1931~1985 小説家 樺太生まれ
国立国会図書館 1953~(?)
東京芸術大学図書館 1955~(?)
和洋女子大学図書館 1968~(1985?)
7. 磯貝勝太郎 1935~ 評論家 東京生まれ
国際基督教大学図書館

11. 関連文献について (すべて渋川驍氏の書かれたものです)

1. 「図書館に関係のあった作家」
『日本古書通信』 第28巻3号

昭和38年3月 P.2-3

2. 『読書春秋』掲載のもの

1. 「アナトール・フランスと仏蘭西上院図書館」 第2巻9号 昭和26年9月 P.7-9
2. 「ストリンドベリと瑞典王立図書館」 第2巻12号 昭和26年12月 P.32-35
3. 「ゲエテとワイマール図書館」 第3巻4号 昭和27年4月 P.32-35
4. 「レッシングとヴォルヘンビュッテル図書館」 第3巻11号 昭和27年11月 P.28-30
5. 「スタンゲルと巴里国民図書館」 第4巻3号 昭和28年3月 P.28-31
6. 「アーヴィングとニュー・ヨーク公共図書館」 第4巻8号 昭和28年8月 P.12-15
7. 「プロスベル・メリメと大英博物館長バニッチイ」 第5巻1号 昭和29年1月 P.34-37
8. 「夏目漱石と帝国図書館」 第6巻1号 昭和30年1月 P.34-37
9. 「森鷗外と図書寮」 第6巻10号 昭和30年10月 P.12-15
10. 「チェーホフとタガンログ市立図書館」 第7巻3号 昭和31年3月 P.28-31
11. 「カーライルとロンドン図書館」 第8巻8号 昭和32年8月 P.6-9,11
3. 「戸川秋骨と国立国会図書館」 『学鏡』 第59巻4号 昭和37年4月 P.37-39
4. 「ブルーストとマザリーヌ図書館」 『図書館雑誌』 Vol.60 No.7 1966 P.274-277

以上、飯澤氏のご教示を、形式を117号のと

きにならって紹介させていただいたものです。関連文献のうち漱石と臨外のものだけは偶然の機会があって気がついていましたが、渋川氏の書かれたものがこんなに多数あるとは思ってもよらず、大変に驚きました。

飯澤氏のご教示のあと、吉行淳之介の書いたものをみると、たとえば『私の文学放浪』には、勤労動員で東大図書館で働いた学生の吉行氏が、同図書館(いまの東大総合図書館)の司書・渋川驍氏に自作の詩を見せたりしたということです。そして渋川氏の方も、ノートに書かれた散文詩を朗読したりしたそうです。渋川氏の散文詩というと、昭和21年にほかの作品と一緒に出版された「柴笛詩集」のことが思いうかびますがもちろん全く別のものかもしれません。

さて、上記の渋川驍氏の文献のなかから、117号に掲載した人を省き、再構成して追加すると次のようになります。

III. 図書館に勤めた文学者

1. ジャック・アミヨ 1513~1594 (フランス) 人文学者・翻訳家
王立図書館長
2. メラン・ド・サン・ジュレ (フランス) 詩人
王立図書館長
3. C.A.ヴルビウス 1762~1824 (ドイツ) 小説家
ワイマール図書館
4. F.W.リーマー 1774~1845 (ドイツ) 詩人・言語学者
ワイマール図書館
5. W.アーヴィング 1783~1859 (アメリカ) 小説家・随筆家・伝記作家
ニューヨーク公共図書館 1849~1859
6. T.カーライル 1795~1881 (イギリス) 評論家・歴史家
ロンドン図書館長 1870~1881
7. サント＝ブーヴ 1804~1869 (フラン

ス) 評論家

マザリーヌ図書館 1840~1848

8. ルコント・ド・リール 1818~1894 (フランス) 詩人

上院図書館長 1873~(?)

9. M.ブルースト 1871~1922 (フランス)

小説家

マザリーヌ図書館 1895~1898

IV. 図書館に勤めなかった文学者

1. スタンダール 1783~1842 (フランス)

小説家

国民図書館写本部(パリ)に勤めようとしたが実現しなかった。

V. 図書館の設立・運営に関係のあった文学者

1. ゲーテ 1749~1832 (ドイツ) 詩人・

劇作家・小説家

ワイマール図書館の監督

イエナ大学図書館の監督

2. W.アーヴィング (上記III-5参照)

ニューヨーク公共図書館創設に協力

3. T.カーライル (上記III-6参照)

ロンドン図書館設立に尽力

(Vには次の3人を加えることにします。この3人は『東大図研報』第74号(1986年6月)の「図書館に勤めた文学者人名録(3)」に「番外篇・其一(図書館に関係のあった文学者)」としてあげた人たちです。)

4. 外山正一 1898~1900 教育家 東京生

まれ 開成所・ミシガン大学 (詩の創作・翻訳がある。「新体詩抄」(明治15(1882)共著)ほか)

「帝国図書館を設置するの建議案」を第9帝国議会(明治29(1896))(貴族院)に提出

「公立図書館資国庫補助法案」を第10帝国議会(明治30(1897))(貴族院)に提出

5. 山本有三 1887~1974 小説家・劇作家

栃木県生まれ 東大独文卒

6. 金子洋文 1894~ 小説家・劇作家

秋田県生まれ 秋田県立秋田工業卒
5・6、国立国会図書館設立のための図
書館運営委員会(参議院)のメンバー。
(参院議員。5.緑風会。6.社会党)

以上とは別に図書館に勤めた文学者を2人
新しく追加します。

VI.追加

1. G.フローベール 1821~1880 (フラン
ス) 小説家
マザラン図書館客員司書 1879
2. ウィリアム・ワイザー (1931?)~
(アメリカ) 小説家
市立図書館(ニューヨーク)

ところで、図書館勤めの文学者に関するも
のを創作のなかにさがしてみると、例えば田
山花袋の「蒲団」では小説家志望の女性が帝
国図書館の職員募集に応募すると手紙に書い
ているとか、阿部知二の「旅人」の大学図書
館に勤める青年が図書館を辞めてから小説家
になるとか、辻邦生の「ユリアと魔法の都」
に市立図書館で働く小説家が出てくるとか
いったものがあります。文学者が図書館に勤め
たり関係したりする動機というのは決してひ
とつではないと思いますが、それに関連して、
花袋と同じ自然主義の作家・岩野泡鳴の小説の
一節にこんな部分があります。

「先づ、僕がどんな動機で鐘詰業を始めた
かと云ふに、さう六ヶしい動機はない、さ、
考へて見給へ。文学をやつて大した金が儲
かるわけはない。歴々な文学者でも金が欲
しければ、別な職業を兼業してゐなければ
ならない。翻訳とか、雑誌編輯とか、出版
屋顧問とか、新聞記者とか、然ざれば、学
校教師とか、家庭教師とか、図書館書記と
か、……」(「放浪」)

そのような場合だけではないと思いますが、
かつてはそうしたこともことによるとあった
のかもしれない。